

日本心理学会第79回大会
宗教心理学的研究の展開 (13)

「臨床現場にみる宗教」

平成27年9月22日 (火)
医療法人大真会 大隈病院
石井 賀洋子

自己紹介

- ・看護師としてキャリアを積んだのち、看護専門学校に教員として勤務。
- ・2000年から大学で「インド仏教学」を学び、名古屋大学大学院で「文化人類学・宗教学・日本思想史」を専攻、2010年に「現代医療と宗教をめぐる実践的考察」で文学博士号を取得。
- ・博士号取得後、看護系大学で看護基礎教育、名古屋市の看護研修センターで現任教育に携わる。2015年1月より現職。

医療・看護という臨床現場

「医療・看護」と聞いて、みなさん
は何をイメージされますか？

明るい？暗い？
楽しい？悲しい？
安心？心配？
気分が良い？苦しい？

ここに挙げたことの全てが、臨床にはあります。

臨床とは

病床に臨むこと (広辞苑)

宗教は治療の妨げになるのか？

- ・宗教は治療の妨げになるのか？
- ・宗教のイメージは？

現場で起きていること

・祈りの行為

患者さまの名を呼びながら、病室のカーテンを開けると、面会者が患者さまに手当を施しておられる最中だった。看護師は驚いてしまい、そっとカーテンを閉じた。

• お守り、お札の数々

患者さまのベッドサイドに出向くと、ベッドに取り付けてある転落防止の柵に、たくさんのお守りが並べて付けてあった。

病気が早く治るようにと、お孫さんがプレゼントしてくれたものだと、うれしそうに話された。

• 食べ物

イスラム教徒の妊婦さんが入院、お産後に食事を提供した。その食事を見て、女性は「汚らわしい」と、載せられているトレーをひっくり返してしまった。

看護師には、その食事の何が汚らわしいのか理解できなかった。

• 死に直面して

看護学生の実習指導を担当していた看護師。学生が受け持つ患者さまが亡くなられた。死後のケアを行うために、看護学生に声を掛けた。「患者さまの魂が空に上っていかれるように、窓を5cm開けておきましょうね」...それを近くで聞いていた教員が「そんな迷信を教えないでください」と窓を閉めてしまった。

• アーメンは嫌だけど

キリスト教系のホスピスに入院した患者さま。ホスピスは気に入っている。「自分は仏教だから、本当はアーメンは嫌なんだ。でも、よくしてくれるから、有難い」と、話された。

宗教行動をどうとらえるか

- 宗教行動の分類 (金見1987. 1997)

「慰霊的行動」

- 祖先や亡くなった肉親の霊をまつる
- 仏壇にお花やお仏飯をそなえる
- 神棚にお花や水をそなえる

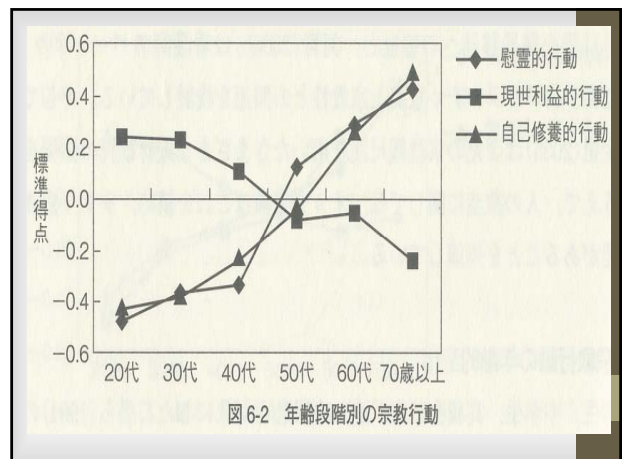
「現世利益的行動」

- この1～2年の間に身の安全や商売繁盛、安産、入試合格などを祈願しにいったことがある
- お守りやお札など、縁起物を自分の身のまわりにおいている
- 初詣に行く

「自己修養（信仰実践）的行動」

“信仰実践行動”とも呼ばれる

- ・ 宗教に関する新聞やパンフレットを読む
- ・ 信仰グループに参加している
- ・ 聖典や経典など、宗教関係の本を折にふれ読む



おわりに

- 宗教行動の意味を理解する
- 信じること
- 超高齢社会を生きるということ
(2025年問題は身近な問題に…)
- いのちの選択を迫る医療
= 生き方の選択

<引用文献>

河野由美2011 中高齢と宗教
金児曉嗣(編) 宗教心理学概論
ナカニシヤ出版